

シンポジウム 14：在宅医療をすべての地域に！

演題名	百島診療所の挑戦 全ての瀬戸内海の島々に訪問診療の輪を広げよう！
-----	----------------------------------

概要

2011年、人口600人足らずの瀬戸内海の過疎の離島で、神奈川から単身開業いたしました。百島では24時間体制の救急体制を構築し、外来、訪問診療まで可能なことは全て行っております。しかし、現実問題はそう甘くはなく、人口600人足らずの島で経営的にやっていけるのか？という大問題があります。これを解決するべく私が考案したのが、他の医師の常駐していない離島（橋のかかっていない島）に対する離島訪問診療でした。現在百島以外での訪問診療の患者数は14名。当院の売り上げの約2割を占めます。急速に進む過疎の離島での人口減少とどのように向き合うか、それは外の離島に目を向けることだったのです。百島での人口予測は5年後は350人。百島のみでの診療では確実に倒産します。その為には何が何でも離島訪問診療を拡充させるしかありません。またそれは同時に瀬戸内海の医師のいない島々を救うことにもつながるのです。

しかし、現実問題どのように往診をするのか？現在はモーターボートでの往診で離島数3島をカバーしていますが近隣の離島のみです。時速40キロのボートではそう遠くまではいけません。私は2002年、プロエアショーパイロットとし活躍しておりました。そんな私は水上飛行機に目を付けました。波のない瀬戸内海なら可能かと考えたのです。現在百島診療所にはULPと呼ばれる簡易機体がテスト機として導入され、テスト飛行を行っております。メディアとも共同し、スポンサーを集めいずれは水上飛行機の実用化にこぎつける計画ですが、はたしてどうなることやら。我々の挑戦はまだまだ続きますが、島で頼りにしてくれている患者さんたちのためにつぶれるまで頑張るつもりです。何故なら私は神奈川県に戻れば明日にでも仕事は見つかります。しかし、島の通院できないお年寄りにとって、我々は島に生き続けるための最後の希望だからです。負けるわけにはいかない戦いがここにはあるのです。